

辯護口 二六七八號

正誤表 (西消進供述書)

頁	行	正	誤
一	六	迄約三〇年〇間ヲ除キ	迄ズ△ツ△ト△
二	九	昭和十二年	昭和十一年
三	一七	就テ當法廷ニ於テ一軍人	於テ一軍人
八	四行の次に	上記ノ軍事課ノ仕事ハ此ノ調整機能ヲ指スノデアリマス	脱落

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

荒木貞夫其他

官警供述書

供述者 西浦 進

自今後我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ツ別紙ノ通り官警ヲ爲シタル上  
次ノ如ク供述政シマス

西 浦 進 口 供 養

私、西浦進ハ本年四十七歳デス、部下西多摩郡青梅町青梅五六〇番地ニ住居シテ居リマス。

終戦當時私ハ陸軍大佐デアリマシタ。私ハ昭和五年末ニ陸軍大佐校ヲ卒業シマシタガ昭和六年十月即チ滿洲事變發生直後カラ昭和十九年十二月即チ太平洋戦争ノ終戦ノ前年末ニ至ル迄ズツト陸軍省軍務局軍務課ニ勤務シ同課ノ豫算主任課員、編制主任課員、高級課員、課長ノ仕事ヲ致シマシタ。此ノ間陸軍省官制ノ改正業務ニモ從ヒマシタノデ、其ノ間ニ於ケル陸軍省官制ノ趣旨ナリ、其ノ實際ノ運用ヲ始トシテ陸軍ノ制度編成等ニ就キマシテハ最も通曉シテ居ルモノノ一人デアルト信ジテ居リマス。

以下陸軍省軍務局長ノ職務権限ヲ其ノ實際ニ付テ供述致シマス。私ノ在任中如何ナル局長モコノ職務権限ヲ逸脱スルヤウナコトハ絶対ニアリマセンデシタ。

第一 軍務局長ノ職務及權限

陸軍省軍務局長ノ主要分課ハ軍事課及ビ軍務課デアリマシタガ尙此ノ外ニ陸軍省新聞班ノ管掌事務ヲ含ンデ居リマシタ。陸軍省ハ元ハ人事局、軍務局、兵器局、經理局、醫務局、法務局ノ六

局カラ成ツテ居リマシタ。一九二六年（大正十五年）整備局ガ新設セラレ總動員、物資動員ノ業務ヲ擔任シマシタ。

一九三六年（昭和十一年）ニハ兵務局ガ分離新設セラレマシタ。サウシテ軍務局ニハ從來ノ軍事課ノ業務ノミガ遺サレ新ニ此ヲ軍事課ト軍務課トニ分ツコトニナリマシタ。其ノ他ノ業務ハ之ヲ兵務局ニ移シタノデアリマス、是等ニハ軍内ノ重要業務タル軍紀風紀、憲兵ニ關スル事項、防空、防諜ニ關スル事項、軍事教練ニ關スル事項等ヲ含ミマス。ソノ時以來、是等ハ全ク軍務局ノ主管ヲ離レマシタ。

陸軍省新聞班モ又昭和十一年（一九三六年）大本營報導部ト二位一体トナリ統帥部ノ指導ヲ受クルコトニナリマシタ。更ニ内閣情報局ノ強化ニ伴ヒ從來陸軍省カラ發表サレタ様ナ事項モ、同局發表ニ移サレタノデ、陸軍省トシテノ發表事項ハ極メテ少クナリマシタ。

以上ノ如キ變化ニ依リ軍務局ノ管掌事項ハ逐次縮少セラレテ參ツタノデアリマス。更ニ實際問題ト致シマシテ以前ノ軍務局長ハ或種ノ人事ニ就テハ人事局ヨリ意見ヲ徵サレテキタノデアリマスガ東條大臣時代以後ニ於キマシテハ此ノ慣行ハ廢止サレマシタソシテ人事ニ就テハ軍務局長ハ何等關知スルコトナク行ハレルヤウニナツテキマシタ。

各省官制通則第十八條ニ依リ軍務局長ト他省ノ各局長トノ間ハ權限ニ於テ

同一デアリ各省ノ局長ハ一般ニ何レモ主要ナル事項ヲ自ラ決定スル權限ハナク大臣ノ命ヲ受ケテ事務ヲ掌ルノミデアリマシタ。彼等ハ全ク同一ノ立場ニアリ同一ノ職責ヲ持ツモノデアリマシタ。軍務局長ガ陸軍省内ノ他ノ局長ニ比較シテ何等カ特別ノ權限ヲ持ツテ居タト申スノハ全ク誤リデアリマス。

次ニ日本陸軍ニ於テ特殊ニ使ハレテ居ル連帶トイフ語ニ就テ説明シマス主務部局ノ案ニ對シ「連帶」ヲスルトイフコトハ其ノ案ノ内自己部局ノ權限ニ關スル事項ニ就テハ異存ガナイトイフ意味ヲ捺印ヲスルコトデアリマシテ或ル案ニ連帶シタモノガ其ノ案全部ニ就テ自己ノ官制上ノ權限ヲ逸脱シテ所謂連帶責任ヲ負フトイフコトデハナイデアリマス、大臣次官ハ各局長ソレゾレノ職務ニ基ク意見ヲ聞イテキタノデアツテ特ニ軍務局長ノ意見ダカラトイツテ他ノ局長ノ意見ヨリモ重視スルコトハアリマセンデシタ。軍務局長ノ意見ガ退ケラレテ他ノ局ノ意見ガ採用サレタコトガ觀々アリマシタ。

觀テ斯等ニシテ一度上官ガ決定シマスト其レニ對シテ部下ハ絕對ニ服従シナケレバナラヌトイフノガ日本陸軍ノ規律デアリマシタ。或ハ此ノ點ニ就テ「軍人ト雖モ其ノ命ゼラレタトコロノ事柄ニ不同意デアラナラバ辭任ヲ申請スルコトガ出來ルシ又サウスベキデアル」ト云フ主張モアリマシタガ其レハ從來ノ日本陸軍ノ秩序内ニ於テハ到底認めラレ得ナイ事柄ダツタノデアリマス。

第二 陸軍省特ニ軍務局ト參謀本部トノ關係

陸軍中央部ノ重要ナル業務ハ陸軍大臣、參謀總長、教育總監ガ分掌シテ居リマシタ。

陸軍省各局課ノ所管事項ハ陸軍大臣ノ管掌事項ヲ配分シタモノニ外ナラヌノデスカラ其レ等ハ局毎ニ嚴重ニ制限サレテ居リ如何ナル場合ニモ陸軍大臣ノ管掌事項ノ範圍外ニ出テ得マセンデシタ。例ヘハ陸軍省官制中ニ軍事編ノ業務ノ一トシテ「編制」ト云フ事項ガ掲ゲラレテ居リマシテモソレハ陸軍ノ編制ヲ軍事課ガ獨リテ決定シ得ルト云フ意味デハナイノデアリマス。何トナレバ軍隊編制ノ提案權ハ元來參謀總長ニ屬シテ居リマシテ參謀本部ニモ編制ヲ擔任ノル部課ガアリマシタ。實際ノトコロハ參謀本部ガ編制ヲ立案シ陸軍大臣ハ其ノ協議ニ應ズルト云フ申合セニナツテホタノデアリマス。

元來陸軍省官制ニ記載サレテキル各種業務ハ殆ンド其ノ大部ノモノガ國防ノ見地ヨリスル參謀總長ノ要求ニ盡クセテデアリマス。支那事變中、後ニハ太平洋戰爭中モ是等ノ要求ハ變化シ益々多クナリマシタ。是等參謀本部ノ要求ノ中ニハ、國內關係又ハ外國關係ノ見地ヨリスル現實問題

ニ對スル陸軍大臣ヘノ要求モ含マレテ居マス。此等ノ參謀本部ノ要求ハ軍務局ニ於テ一應受理シ、其ノ内容ニ依リ各局

ニ移牒シテ仔細ニ研究シタル上陸軍大臣ノ命令ニ基キ回答スルモノデア  
リマス。然シ中ニハ軍務局ヲ經由セヌモノモアリマシタ。陸軍省ト參謀  
本部ノ間ニ屢々不一致ガアリマシタ、ソシテ更ニ協議ト交渉ヲ重ネル必  
要ガ屢々起リマシタ。  
尙參謀本部ノ要求ハ陸軍省以外ノ省ニ關係スルコトガ多ク是等ニ關シ陸  
軍省ハ關係省ト商議シマシタ。例ヘハ豫算關係ハ經理局ヨリ大藏省ニ、陸  
軍省ハ關係省ト商議シマシタ。例ヘハ豫算關係ハ經理局ヨリ大藏省ニ、陸  
資材關係ハ整備局ヨリ企畫院或ハ軍需省ニ、外交關係ハ軍務局ヨリ外務  
省ニ夫レ夫レ交渉スルノデアリマシタ。

尙陸軍大臣ハ一面國務大臣トシテ嫌疑トク政治外交ノ活動ヲ知ラネバトラス  
 他面高級軍事ニタツサハル特訓トシテ完全ナル軍人デアラネバトラス、謂ハ  
 バ二重性格ヲ持ツテキマシタ。然ルニ參謀總長ハ純然タル統帥機關ノ長デア  
 リマスノデ、必然的ニ戰爭ノ場合ニ於テハ作戰ニヨリ勝利ヲ得ルトイフコト  
 ヲ考ヘルコトハ其ノ至高ノ職務デアリマシタ。從ツテ陸軍大臣ハ、此ノ對立矛盾ノ  
 長ト銳イ對立ヲ余議トクサレタデアリマス。軍務局長ハ、此ノ對立矛盾ノ  
 解決ヲ參謀本部ト事務的ニ折衝スルト共ニ他面參謀本部ノ爲ニハ政府ノ他ノ  
 機關ニ對シテ代辯者ノ役ニ任ジタデアリマス。

陸軍省内ノ多數ノ者ガ大本營ノ職員ヲ兼務シテキタノハ事實デアリマス。

例ヘバ兵器局長、經理局長、醫務局長ガ夫レデアリマス。陸軍大臣モ亦必要  
 ニ應ジテ若干ノ隨員ヲ伴ヒ大本營ノ部ニ列スルコトニナツテ居リマシタ。

然シ實際上參謀本部ト陸軍省トノ職域權限ノ關係ハコレヨリ何等ノ變化モ  
 蒙ラトカツタデアリマス。

大本營ノ職員ヲ兼務シテキトカツタ軍務局長ヤ人事局長ハ單ニ右ノ大本營ニ  
 於ケル陸軍大臣ノ隨員ヲ命ゼラレタニ過ギマセン。

大部分ノ職員ハイツモハ陸軍省内ノ固有ノ席ニ於テ執務シ、必要ガ起ツタ場  
 合ニノミ大本營ニ出向イタデアリマス

新様ニ軍務局長ハ次官、人事局長等ト共ニ大臣ノ隨員デアリマシタガ、大本



營ノ議ニ参加スルコトモトク、單ニ大臣ガソレニ参加スル場合ノ事前ノ準備、事後ノ處理等ノ事務ニ服スルノミデアリマシタ。又軍務局長ノ如キ隨員ハ作戰ニ關シテハ陸軍省固有ノ職員トシテノ事務處理ノ上デ必要ト程度ニ於テ大本營幕僚カラ說明ヲ受ケタノミデアリマス。

第三 軍務局ノ主管事項

軍事課ヲ管掌スル事務ノ中ニ國防ノ大綱ニ關スル事項ト云フノガアリマス。軍事課ハ國防ノ根本ヲ決定スル力ヲ持タズ各局課ノ業務ガ不統一デバラバラニナルノヲ防グ付事ヲシタノデアリマス。關係各局課間ノ協議ガ繼マラヌ時ニモ軍事課ニハ其ノ紛議ヲ解決スル機能ガ無ク單ニ調停シ意見ヲ述ベルニ過ギマシデシタ。

國防用兵ニ關スル事項ハ參謀總長及ビ軍令部總長ノミガ之ヲ司ルモノデアリマシテ、此ノ事ハ常時發生スル事項ニ就テモ亦同様デアリマス。但シ其レ等ノ中デ豫算資料ヲ要スル案ハ此レヲ陸海軍大臣ニ協議シマス。其ノ同意ヲ得ヌ案ニ付テハ各局ハ夫レ夫レノ擔任業務ヲ行フノデアリマス。

軍務課ノ管掌事項中「國防政策ノ一般ニ關スル事項」ト云フノモ、何カ軍務課ガ一國ノ國防政策ヲ決定スル一般權限デモ持ツ様ニ解釋セラレ易イノデアアリマスガ、全然サウデハアリマセン。抑々各局ハ前述ノ參謀總長ト陸軍大臣トノ間ニ協議決定セラレタ方針ニ基キ、夫レ夫レノ業務ヲ行ヒマス

此ノ業務ハ例ヘバ物資動員トカ國民ノ保健トカ云フ様ト元來カライヘバ軍以外ノ政府機關ノ主管スル事項ヲ含ミマス。然シ之等ノ各部局ノ要求ハ其レ等ガバラバラニ持込マレタノデハ混亂ガ生ジマス。ソコデ此レヲ調和スルトコロノ機關ガ必要トナリマス。

次ニ軍事課ハ豫算ニ關スル或種ノ業務ヲモツテキマス。陸軍省全体ノ豫算ヲ作製セシメ各局課ノ要求ヲ集計シ又成立シタ豫算

ヲ分配スルノハ經理局主計課ノ仕事デアリマス。軍事課トシテハ此ノ各局課ノ豫算ノ編成、進用ヲ國防用兵ノ要求ト合致セ

シムル如ク努力スル仕事ヲ以ツテ居タノデアリマスガ陸軍省内ノ豫算ノ一

キアリマシタ。然シ乍ラ豫算ノ問題カラ故意ニ參謀本部ノ計畫ヲ阻止スル

コトハ出來マセンデシタ。何トナレバ參謀本部ハ陸軍ノ豫算總額ト大体ノ

配分ハ熟知シテキルカラデアリマス。而シテ之等ノ決定權ハ總テ大臣ノ手中ニアリ勿論軍務局長ニハアリマセン

私ノ知ル限り是ガ全クノ事實デアリマス。

第四 軍務局長ノ兼職

軍務局長ハ必然的ニ職權ニ依リ若干ノ職務ヲ兼任致シマス。其ノ職務ノ一ツトシテハ軍務局長ハ軍事參議院ノ幹事長トナルコトニトツテキマス。

其、唯一ノ仕事ハ秘書的性質ノモノデアリマシタ。即チ幹事長ハ會議ノ開カ  
 レル場合共、日時及場所ヲ參事官ニ通知シタリ書類ヲ分配シタリスル仕事ヲ  
 致シマシタ。會議ノ場合發言モヤズ又議決權モアリマシヤン。唯議事内容ヲ筆  
 記スル位ノミデアリマシタ。

軍務局長ハ又大本營、政府連絡會議ノ幹事ヲ致スコトニナツテキマス。陸軍  
 省軍務局長ハ内閣書記官長及海軍省軍務局長ト共ニ此ノ會議ノ幹事トナルベ  
 キコトニ申合ヤガ出來テキタノゾス。幹事ノ唯一ノ仕事ハ會議ノ開カレル前  
 ノ必要書類ノ配布、議決書類ノ處理等ヲ爲スコトデアリマス三人共如何ナル  
 方法ヲ以テシテモ連絡會議ノ討議ニ加ハル權能ガアリマシヤン。陛下ノ御前ニ  
 於テ右ノ連絡會議ガ行ハレル場合ニ就テモ同様デアリマシタ。

尙軍務局長ハ内閣又ハ各省ノ委員會ニ委員トシテ又色々ノ職ヲ持ツテ居リ  
 マシタガ、之ハ各省共通ノコトデアリマシテ各機關相互ノ聯繫ヲヨクスル爲  
 ニ設ケラレタモノデアリマス。然シ此等委員會ノ決定ハ其ノ委員會等ヲ主管  
 一、ル機關ニ對シ拘束力ヲモツモノデナク、又實際問題トシテモ局長等ガ自身  
 會議ニ出席スルコトハ殆ンドナク、代理者ガ出席スル場合ガ多クツタノデア  
 リマス。

樞密院ニ對シテハ軍務局トシテハ直接何等ノ關係ナク陸軍大臣ガ自身出席ヲ  
 要請セラレル時局長又ハ其ノ部下ガ單ニ説明員トシテ大臣ニ隨行スルバカリ

テアリマシタ。ソレハ必要アル場合ニ於テ技術的事項ヲ自局ノ範圍ニ關シ  
テ説明スルコトイデアリマス。  
政府委員トシテ帝國議會ニ出席スルコトニ付テハ常ニ討議事項ニ關スル關係  
省カラノ代表者ガ居リマシタ。政府委員ニハ政務次官、參與官、他次官、軍  
務局長、總務局長ガ命ゼラレマシタガ時トシテ他ノ局長ガ任ゼラレルコトモ  
アリマシタ。  
何レニシテモ彼等ガ大臣ノ命ヲ承ケ委員會ニ於テ所要ノ説明答辯ニ當ツタダケ  
テアリマス。是等ノ仕事ハ一政策ノ決定トシテハアリマセヌ。

昭和二十二年（一九四七年）十月七日 於東京

供述者 西 浦 進

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日 於東京

立會人

Rogon H. Cole

良心ニ於テ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘スズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ  
誓フ

宣  
誓  
書

署名捺印

西  
浦

進  
印